
平成 2 3 年度
留学生交流支援制度（長期派遣）
Q & A

平成 2 2 年 1 0 月

独立行政法人日本学生支援機構
留学生事業計画課 長期留学担当

【目次】

1. 応募条件に関する事項

- Q 1－1 ダブルディグリー・プログラムやジョイントディグリー・プログラムによる留学での応募は可能か。…… 1
- Q 1－2 入学時の新入生オリエンテーションや履修登録から支援期間として認められるか。 …………… 1
- Q 1－3 4年以上の博士コースに留学するための申請は認められるか。…………… 1
- Q 1－4 予定の留学期間内で学位が取得できず、その後も学位取得に向けて継続して教育研究活動を行う場合、本制度の支援対象として更新できるか。…………… 1
- Q 1－5 留学先の大学でTA (Teaching Assistant) やRA (Research Assistant) を行って対価を得ることは可能か。… 1

2. 申請に関する事項

- Q 2－1 申請書類の作成にあたり図表や写真等を利用することは可能か。…………… 1
- Q 2－2 「留学希望先に関する書類」について、留学希望先を第二希望まで記載する場合の提出資料は何か。…… 1
- Q 2－3 語学能力証明書は、正本ではなくコピーの提出でも良いか。…………… 1
- Q 2－4 健康診断書について、指定様式にあるすべての項目の検査を受けた診断書を提出する必要があるのか。… 2
- Q 2－5 採用決定後に留学先を第一希望若しくは第二希望以外の大学に変更することは可能か。…………… 2

3. 留学開始後

- Q 3－1 採用決定後や留学開始後、条件の変更や辞退を申請する場合は、どのような手続きを取れば良いか。…… 2
- Q 3－2 長期間不在となる場合でも奨学金は支給されるのか。…………… 2
- Q 3－3 奨学金や授業料は毎年同じ額をもらえるのか。…………… 2

1. 応募条件に関する事項

Q1-1 ダブルディグリー・プログラムやジョイントディグリー・プログラムによる留学での応募は可能か。

- A. 本制度の趣旨に合致していれば、ダブルディグリー・プログラムやジョイントディグリー・プログラム等の複数学位制度による留学での応募も可能で、複数学位制度枠も設けておりますが、支援対象期間は海外での留学期間のみとなります。なお、海外での留学期間を終了し、日本の大学に復学した後に学位を取得する場合は、募集要項第6項第1号に掲げる要件にある「留学期間終了後」は「学位取得後」に読み替えてください。

Q1-2 入学時の新入生オリエンテーションや履修登録から支援期間として認められるか。

- A. 認められません。授業や研究活動を開始した日を教育課程（支援期間）開始とみなします。

Q1-3 4年以上の博士コースに留学するための申請は認められるか。

- A. 「博士」の学位を取得するコースが通常4年以上とされている場合については、コースの取り組み内容如何によって、4年以上での更新を認める場合があります。なお、留学希望先大学のホームページ等で博士コースが「3～4年」と明記されている場合、3年での学位取得が可能と判断されるため「3年」で申請してください。

Q1-4 予定の留学期間内で学位が取得できず、その後も学位取得に向けて継続して教育研究活動を行う場合、本制度の支援対象として更新できるか。

- A. 更新できません。この場合、速やかに申請大学に報告してください。

Q1-5 留学先の大学でTA (Teaching Assistant) やRA (Research Assistant) を行って対価を得ることは可能か。

- A. 留学先大学において、TA (Teaching Assistant) やRA (Research Assistant) を行うことは、教育研究活動の一環と考えられるので可能です。

2. 申請に関する事項

Q2-1 申請書類の作成にあたり図表や写真等を利用することは可能か。

- A. 枚数制限の範囲内であれば構いませんが、指定された様式や項目の順序を変更することは認められません。

Q2-2 「留学希望先に関する書類」について、留学希望先を第二希望まで記載する場合の提出資料は何か。

- A. 第二希望がある場合、第一希望校に加えて、第二希望校に係る「13. 留学希望先に関する書類」も提出してください。また、入学許可証を取得している場合は、その写しも添付してください。

Q2-3 語学能力証明書は、正本ではなくコピーの提出でも良いか。

- A. コピーでも結構です。その他の提出書類に関し、正本の提出が必要かどうかについては、応募者作成書類にて確認してください。

Q2-4 健康診断書について、指定様式にあるすべての項目の検査を受けた診断書を提出する必要があるのか。

- A. 国内の医療機関で健康診断書の様式に記載しているすべての項目を検査した診断書を提出する必要があります。ただし、現在海外に在留している場合等は、海外の医療機関で発行した診断書に和訳を添付するとともに、様式に記載のある項目の診断が受けられない場合は、受診可能な項目について診断書を提出してください。

Q2-5 採用決定後に留学先を第一希望若しくは第二希望以外の大学に変更することは可能か。

- A. 採用決定後における第一希望若しくは第二希望以外の留学先大学への変更は原則認めません。ただし以下の条件をすべて満たすと留学生交流支援制度(長期派遣)審査会が判断した場合、留学先大学変更に関する再審査を行います。

- ①変更先の大学が採用決定時の大学と同等またはそれ以上のレベルであること。
- ②変更先の大学においても採用決定時の大学と同等またはそれ以上の研究が可能であること。
- ③応募区分(修士または博士)及び分野(人文・社会科学分野または自然科学分野)が採用決定時と同じであること。

また、再審査にあたって応募者が申請大学に提出する書類は次のとおりです。

- (1) 変更申請書(様式任意)
- (2) 願書(当初応募書類「様式2-1」)
- (3) 経歴書(当初応募書類「様式2-2」)
- (4) 留学計画及び帰国後の進路計画書(当初応募書類「様式2-3」)
- (5) 当初申請時大学の受入許可書の写し(和訳添付)または受入不許可についての文書の写し(和訳添付)
- (6) 変更先大学の受入許可証の写し(和訳添付)
- (7) 留学希望先に関する書類(和訳添付)(当初応募書類「様式2-8」)

※変更申請書には、以下の2点を必ず記載してください。

- ① 応募時の留学希望先大学の入学許可書の取得状況
- ② 変更理由並びに変更先の大学及び研究のレベルが応募時の大学のものと同等またはそれ以上であること

3. 留学開始後

Q3-1 採用決定後や留学開始後、条件の変更や辞退を申請する場合は、どのような手続きを取れば良いか。

- A. 採用決定後や留学後の条件変更による変更手続き及び辞退手続きは申請大学を通じて行いますので、該当する場合は速やかに申請大学に連絡してください。なお、場合によっては支給済みの奨学金等の返還を求めることがありますので、注意してください。

Q3-2 長期間不在となる場合でも奨学金は支給されるのか。

- A. 奨学金の支給期間中で、月の初めから終わりまで1か月以上にわたって留学先の国・地域を離れる場合は、一時不在届を申請大学に提出していただくことになります。学位取得のために必要な現地調査等による場合を除き、当該月については奨学金は支給しません。なお、月の初めから終わりまで現地調査先国・地域に滞在する場合は、その国・地域の奨学金額を支給します。

Q3-3 奨学金や授業料は毎年同じ額をもらえるのか。

- A. 募集要項第4項第3号にあるとおり、更新が認められた場合は継続して支援いたしますが、政府予算は会計年度(4月～翌年3月)毎に変わる可能性があるため、支援予定額も会計年度毎に変わる場合があります。